

再生・活性化を果たした商店街事例 No.21

下御門商店街協同組合(奈良県奈良市)

【取組の方向】 イベントや広報誌、SNS等による多角的な情報発信で商店街の知名度アップ

商店街の特徴: 歴史と多様な業種がある店舗構成(27店舗)で、地域に根ざした商店街

○商店街の置かれた状況

店主の高齢化とともに顧客が高齢化傾向にあり、若い世代の地域住民を商店街に取り込めていない。また、商店街活動を担う後継者育成も課題となっている。

○対応策

商店街の知名度向上を図るため、イベントの実施、若手店主を主体とした商店街の情報発信等を検討。

○状況変化

近隣にあるインキュベーション施設「夢CUBE」出身者が当商店街内で出店。その若手店主が商店街活動に積極的に参画。商店街ホームページやフェイスブックを活用し、若者の感覚を活かした商店街の情報発信を開始。

○具体的取組

・2012年より毎年夏に「流しそうめん」イベントを実施。2000人以上の来街者が商店街を訪れ、商店街の知名度向上に貢献。運営は組合幹部、女性メンバー、若手メンバーが担い、商店街活動における後継者育成の場にもなっている。

・若手店主を中心に商店街広報誌「しみかど帖」を作成し、商店街の知名度向上、各店舗の魅力発信に貢献。

○具体的成果

27年度来街者が対前年度比21.5%増

【地方自治体の取組】

・流しそうめんイベント等に対する広報協力
・市の助成により商店街LED照明を整備(1/2補助)